TOYOTOMI

トヨストーブ

トヨレンジ

# 取扱説明書
## 〈保証書付き〉

型式 **K-3F**（ケー エフ）

石油こんろ

このたびは本機をお買い求めいただきまことにありがとうございます。

●ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、に大切に保管しておいてください。

●取扱説明書を紛失された場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

目　次



株式会社トヨトミ

3382009030

# 1 安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

| | |
|---|---|
| ⚠危険(DANGER) | この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
| ⚠警告(WARNING) | この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。 |
| ⚠注意(CAUTION) | この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。 |

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

| | |
|---|---|
|    | この絵表示は、「禁止」されている内容です。 |
|   | この絵表示は、「注意」していただく内容です。 |
| | この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。 |

●説明文中の「**お願い**」事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

## ⚠危 険(DANGER)

### ★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

## ⚠警 告(WARNING)

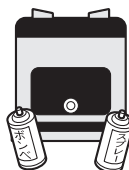
### ★換気必要

●換気せずに使用しつづけないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。
●使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
●換気する場合は、換気扇を使用したり(換気扇を使用する場合は、離れた位置の窓を開けないと充分な換気ができない場合があります。)2カ所以上の(風の出入りのある)開口部を設けると効率よく換気できます。
窓が凍結していたり、地下室などで換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

換気

### ★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、こんろの上や周囲に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

禁止

### ★給油時消火

給油は、必ず消火していることを確認し、こんろの温度が充分に下がってから、他に火の気がない所でおこなってください。
火災の原因になります。

消火

### ★カーテン、寝具など、可燃物近接厳禁

●カーテン、布団、毛布などや燃えやすいもののそばでは使用しないでください。火災の原因になります。
●こんろの周囲に可燃物を置かないでください。
こんろの熱気で着火して、火災の原因になります。
●可燃物との離隔距離については、P3の **★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す** の記載内容を参照してください。

禁止

### ★空だき厳禁

なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。
空だきすると内部に熱がこもって火災の原因になります。

禁止

### ★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が乾燥すると、こんろの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。

禁止

### ★可燃性ガス使用厳禁

こんろを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。
火災の原因になります。

使用禁止

### ★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

消火

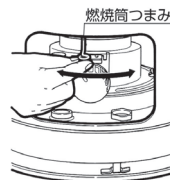
### ★調理中はこんろから離れない

●煮物等調理したまま、こんろから離れないでください。
食材がこげたり燃えたりして火災の原因になります。
●電話や来客などでこんろから離れる場合は、いったん火を消してください。

禁止

### ★燃焼筒は正しくセットする

点火操作後、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しく、しん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。
燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。
マッチ点火の場合は、燃焼筒のセットを確認するとともにマッチの燃えかすをしん付近や器具内に落としたり、置台の上に置かないでください。火災の原因になります。
マッチや点火用ライターなどの特に引火性の高いものは、こんろ及びその周囲に絶対に置かないでください。火災の原因になります。

確認

## ⚠注 意(CAUTION)

**★燃焼中移動禁止**

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。

**★異常・故障時使用禁止**

油漏れやにおい、すすの発生、炎の状態など異常や故障と思われるときは、使用しないでください。
事故の原因になります。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。

**★移動・運搬するときの注意**

- こんろを移動する場合は、必ず消火し、こんろの温度が充分下がってから、傾けないように静かに移動してください。
- 修理・引越しなどで、こんろを運搬される場合は、油タンクの灯油を必ず抜いてください。
  運搬の途中に灯油がこぼれて、周囲を汚すおそれがあります。

**★大なべ禁止**

- 上面板の外周からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。
  内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
- 不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。
  転倒するおそれがあります。

**★高温部接触禁止**

- 燃焼中や消火直後は、高温部、こんろの上面に手などふれないように注意してください。
- やかんやなべの取っ手は、加熱している場合もありますのでやけどに注意してください。

**★高温部に注意**

燃焼中や消火直後は、燃焼筒の上部から高温の熱気が出ています。手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。

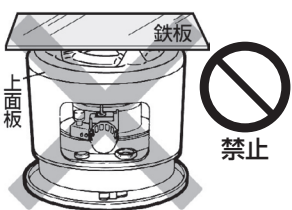
**★煮こぼれ注意**

煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。
煮こぼれ汁が、しんや感震部にかかりますと、火が着きにくくなったり、しんが下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。

**★風のあたる場所で使用禁止**

- 屋外や部屋の出入口など、風のあたる場所では使用しないでください。
  異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 風があたらないように、つい立てを立てる場合は、内部に熱がこもらないように、つい立てをこんろから約15㎝以上離してください。

**★内部に熱がこもる使いかた禁止**

上面板の上に、こんろより大きい鍋や鉄板を直接のせて、上面をふさぐような使いかたをしないでください。
内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

**★ほこりの除去**

燃焼部周辺や置台、製品内部のほこりをときどき掃除してください。
油タンクの下から燃焼用空気を吸い込みますので、紙やビニールなどを入れないように注意してください。
ごみ、ほこりが堆積すると、異常燃焼や火災の原因になります。

**★安全装置の作動確認**

使用開始時と、使用中は1箇月に1回以上、および誤って煮こぼれをした場合は、対震自動消火装置を作動させて、確実に消火することを確かめてください。
確実に消火しないときは使用しないで、すぐに修理してください。

**★純正部品の使用**

しんなどの部品は、必ずトヨトミ純正部品(指定された部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、こんろの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

**★不良灯油使用禁止**

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)などの不良灯油を使用しないでください。
異常燃焼や故障(しんが下がらない、点火できない、火が消えない)の原因になります。

**★点火前の注意**

使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って、点火してください。
しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。

## ⚠注 意(CAUTION)

### ★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら使用しないでください。
こんろは絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

### ★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、こんろの取扱い、部屋の換気、高温部への接触によるやけどなどについて、周囲の人が充分に注意してください。

### ★保管時にしていただくこと

- 長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜いてください。
  傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
  火災のおそれがあります。
- しんの手入れ(から焼クリーニング)は、風があたる場所ではおこなわないでください。
  火災のおそれがあります。

### ★廃棄するとき

こんろを廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を抜き取ってください。
(11 保管 参照)
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、思わぬ事故が発生するおそれがあります。

### ★次の場所では使用しない

火災や予想できない事故や故障の原因になります。

**水平でない場所、不安定な場所**

- 傾斜した場所や振動の激しい所では使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりしたじょうぶな場所で使用してください。
- 移動車両の中や、不安定な台の上などで使用しないでください。転落したり、火災になるおそれがあります。

**ほこりや湿気の多い場所**

- 粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
  燃焼用空気を取入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

**可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所**

- 爆発や火災の原因になります。

**不安定な物をのせた棚などの下**

- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

**直射日光のあたる場所、温度の高い場所**

- 異常燃焼を起こすおそれがあります。

**風のあたる場所、部屋の出入口、屋外**

- 風のあたる場所や屋外では使用しないでください。炎が出て危険です。掃除機の排気にも注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあり危険です。

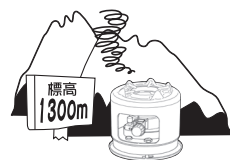
**温室・飼育室など人のいない場所**

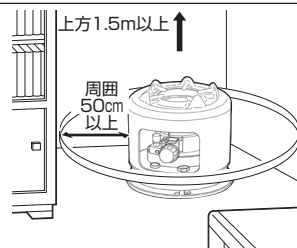
- 使用環境の変化で、予測しない事故が発生するおそれがあります。

**船舶や車両、特殊な場所**

- 船舶や車両に搭載したり、暖炉や押入れに入れて使用したり、温室や業務用の使用など、特殊な場所での使用はおこなわないでください。
  火災の原因になります。

**高地(1300m以上の場所)**

- 酸素濃度が薄いので異常燃焼を起こすおそれがあります。

### ★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す

- こんろから可燃物の距離は右図の指定以上の距離を保つようにしてください。
- こんろ上方の棚などとの距離は必ず1.5m以上離してください。
- カーテンなどが風でゆらいでもこんろにふれないようにしてください。
- 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。

## お 願 い(NOTICE)

**★灯油の廃棄** 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

# 2 使用する場所

- こんろは、ガスこんろ台などの安定した水平な台の上などに置いてください。
  人がぶつかったりしない場所に置いてください。

# 3 各部のなまえ

## 外観図

## 構造図

上面板

燃焼筒

燃焼筒
つまみ

本　体

体止めねじ

ガイドピン

トヨ耐熱しん
第124種
（TTS-124）

しんホルダー

止めねじ

対震自動
消火装置

しん調節器

しん調節
つまみ

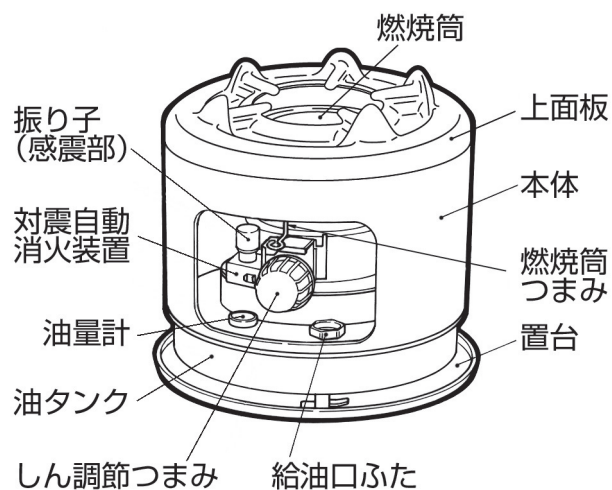
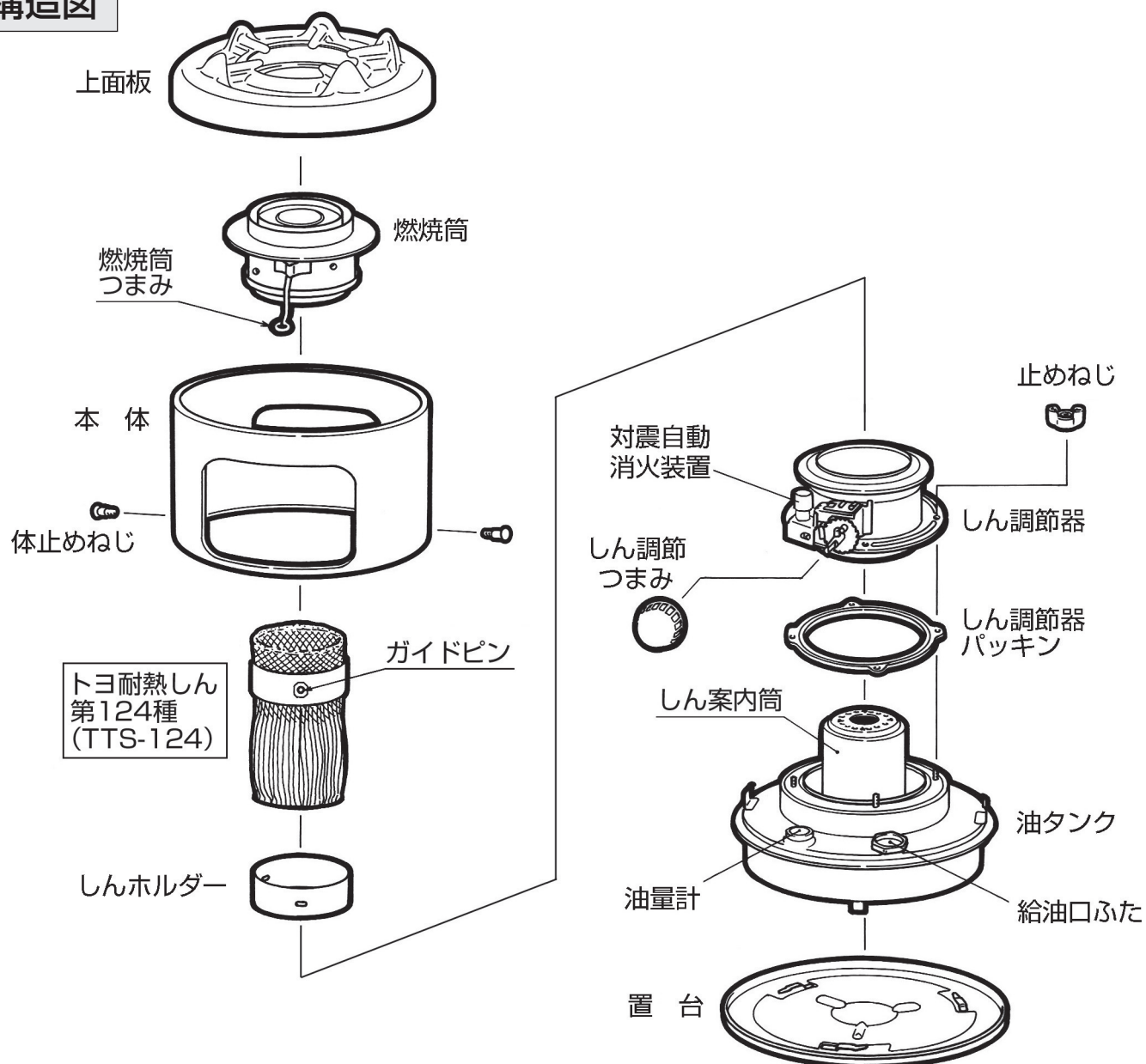
しん調節器
パッキン

しん案内筒

油タンク

油量計

給油口ふた

置　台

**お願い**

耐熱しんに、灯油の燃えかす（タール）が多量に付着しますと、しんが下がらなくなったり点火しにくくなったりします。
11 保管「4 しんの手入れをする」を参照して、しんのから焼きクリーニングをしてください。

## こんろを取り出す

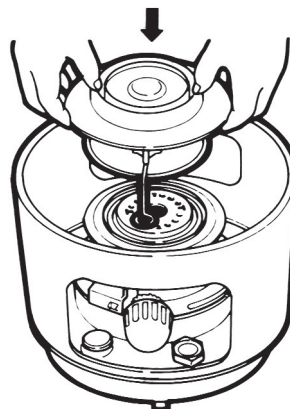
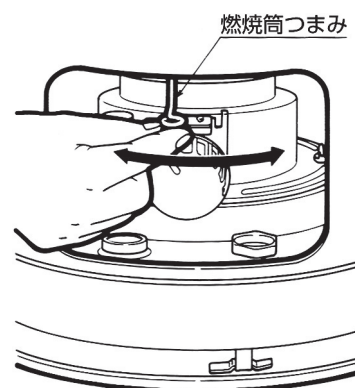
**1** 包装箱に表示してある「包装の内容」をごらんになったうえで、包装箱から包装材などを取り除き、製品を傷つけないように取り出してください。
包装箱や包装材はこんろを保管するときに必要です。取扱説明書も忘れずに保管してください。

**お願い**
包装材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。

**2** 上面板を取りはずしてください。

**お願い**
燃焼筒の端面に手、指などふれないようにしてください。

## 燃焼筒をセットする

**1** 燃焼筒を、しん調節器の上に正しくセットしてください。

**2** 燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かし、燃焼筒が正しくセットされているか、しんの上にのっていないかを確かめてください。

## 燃　料

**⚠危険**

**★ガソリン使用禁止**
**ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。**

### ◉燃料は灯油（JIS1号灯油）を必ず使用してください。
### ◉不良灯油（変質灯油、不純灯油）は、絶対に使用しないでください。

- 誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときはあわてずに、対震自動消火装置の振り子（感震部）を押して消火してください。
- 変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油･水･ごみが混入した灯油など）などの不良灯油は、絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。
- 市販されている助燃剤（添加剤）は使用しないでください。異常燃焼を起こすおそれがあります。

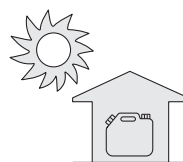
**灯油とガソリンの見分けかたのポイント**

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
（火の気のない所でおこなってください）

| ○　灯　油 | ×　ガソリン |
|---|---|
| 濡れたままです。 | すぐに乾いてしまいます。 |

### ◉灯油の保管のしかた

- 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
- 灯油容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ず色付きの灯油専用容器を使用してください。
- 灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
- ドラム缶などで、長期間大量に保管しないでください。
- お子様の手のとどかない所に保管してください。

| 良い保管 | 悪い保管 |
|---|---|
| 直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管 | 直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管 |

### 変質灯油とは

- 古い灯油。（ひと夏持ち越した灯油）
- 日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
- 変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。
- 変質を防ぐため灯油は翌シーズンに持ち越さないようにしてください。

古い灯油は使わないで
使用禁止

### 不純灯油とは

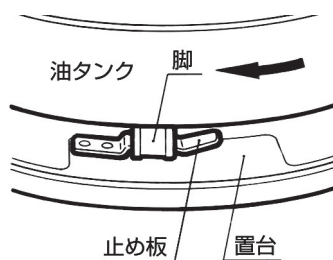
- 灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。
- 水やごみが混入した灯油。

**3** 上面板を本体の上に水平となるよう確実に取り付けてください。

## 置台に固定する

置台と油タンクを固定してください。油タンク底面の脚を置台の止め板（3箇所）に回して引っかけ、固定してください。

**お願い**

**必ず置台を取り付けて使用してください。**

**お願い**

**製品の輸送中に生じた燃焼筒の変形、ねじのゆるみや、はずれなどがないか調べてください。**

## 不良灯油（変質灯油・不純灯油）の見分けかた（コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。）

| 保管期間が短く、水と同じ無色透明なら正常。 | 少しでも色がついていたら使用しない。 | 紫外線で灯油が劣化した時は、灯油が変色しにくく見分けかたが難しくなります。ひと夏持ち越した灯油は無色透明でも絶対に使用しないでください。 |
|---|---|---|
|   |    使用禁止 | |

### 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると

- **変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用しますと、灯油の程度にもよりますが、1〜30日のご使用でしんに多量のタールがたまり、しんの先端が固くなったり、点火しにくくなったり、しんが上下しにくくなったり、炎が大きくならなくなったり、激しいにおいがしたりします。**
  **また、消火時にしんが下がらず火が消えなくなります。**
- 水の混入した灯油を使用しますと、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなったり、しんが上下しにくくなったり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
- ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。

### 万一変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使ったときの処置のしかた

**1** 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2〜3回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。
（悪い灯油が残っていると再発します。）

**2** **11 保管「4しんの手入れをする」を参照して、しんの先端の固くなっている部分を、ラジオペンチなどで軽くつぶしてから、しんのから焼きクリーニングをおこなってください。**

**3** しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。
しんの取り替えは、販売店までお問い合わせください。

**お願い**

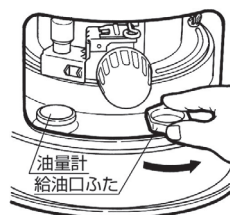
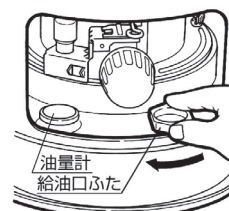
変質灯油や不純灯油などの不良灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

## 給油のしかた

| ⚠警告 | 給油は、必ず消火していることを確認して、こんろの温度が充分に下がってから、<br>他に火の気のない所でおこなってください。<br>火災の原因になります。 |
|---|---|

### 1 給油口ふたを開ける。
給油口ふたを、左「 」に回して開けてください。

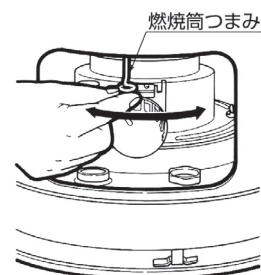
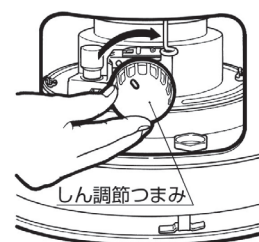
### 2 油量計を見ながら給油する。
- 市販の給油ポンプの先端を止まるまで軽く差し込んで、油量計を見ながら給油してください。（ホースが抜けないように注意しながら給油してください。）
- **灯油は、油量計の「満」の位置まで給油してください。**
  **「危」**の位置まで入れ過ぎますとあふれ出ることがありますので充分に注意してください。

**お願い**
- **オート給油ポンプを固定する場合は、ホースを油タンクにクリップで固定できないので、必ず、ホースが給油口から抜けないように手で固定しながら使用してください。**
- オート給油ポンプの「満量位置」の調節は、ポンプの取扱説明書に従っておこなってください。

### 3 給油口ふたをしっかりしめる。
- 給油口ふたを右「 」に回してしっかり締めてください。
- 灯油容器のふたも、しっかり締めておいてください。

### 4 こぼれた灯油はよくふき取る。
こぼれた灯油は、必ずきれいにふき取ってください。危険ですし、燃焼中に臭気を発生する原因にもなります。

#### 給油の目安
こんろを使用するときは、ときどき油量計を見て、灯油があるかどうか確認し、油量計の針が**「0」**を示す前に給油してください。

## 点火前の準備と確認

#### 点火前の確認
- こんろの上方や周囲、置台の上に、布類や紙やマッチなど、可燃物がないことを確認してください。可燃物があると火災のおそれがあります。
- こんろが水平で安定した場所に設置してあることを確認してください。

#### 燃焼筒のセットを確認する
点火操作をする前には、必ず燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているかどうか、燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かして、スムースに動くことを確認してください。

#### 対震自動消火装置のセット
しん調節つまみを、**「燃焼」**の方向（ ）に、ゆっくり止まるまで回しますと、対震自動消火装置が自動的にセットされます。
対震自動消火装置がセットできない場合は一旦しん調節つまみを**「消火」**の方向（ ）へ回してからおこなってください。

## 点火のしかた

⚠注意

**使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って、点火してください。**
**しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。**

初めてお使いになるときは、点火後、こんろに付着しているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらくお使いいただければ、においはなくなります。

### 1 しん調節つまみを「燃焼」の方向へゆっくり回す。

しん調節つまみを**「燃焼」**の方向（ ）に、ゆっくり完全に止まるまで回してください。（しんが上がります。）

### 2 マッチや市販の点火用ライターで点火する。

- 燃焼筒つまみを持ち上げ、マッチや市販の点火用ライターなどを使ってしんに火を着けてください。
- マッチや点火用ライターなどの特に引火性の高いものは、こんろ及びその周囲に絶対に置かないでください。火災の原因になります。
- たばこ用のライターでは点火しないでください。
- **マッチで点火した場合は、マッチの燃えかすをしん付近やこんろ内に落したり、置台の上に置かないでください。火災の原因になります。**

### 3 火が着いたことを確認し、燃焼筒のセットを確認する。

- 火が着いたことを確認したら、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。
  燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。
- 火が着いたことを確認したら、しん調節つまみを少しだけ（点火した火が消えない程度に）消火の方向に回してみて、引っかかりなくスムースにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。
  しん調節つまみがスムースに回らないときは、燃焼筒を持ち上げて、しんを完全に下げてから、点火操作を始めからやり直してください。

## 炎の調節のしかた

⚠警告

**衣類などの乾燥には使用しないでください。**
**衣類が乾燥すると、こんろの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。**

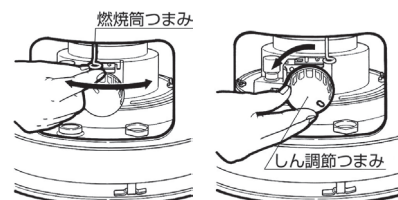
**炎の調節**

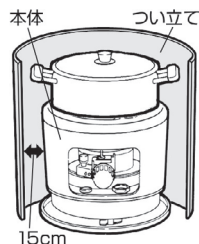
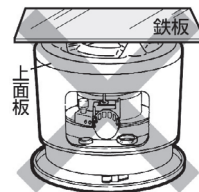
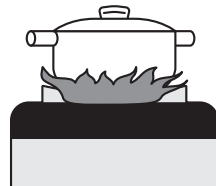
- **炎の調節は、しん調節つまみを回しておこなってください。**
- しん調節つまみを回して炎を調節するときは、**炎の状態** のイラストをよく見て、必ず正常燃焼の状態で使用してください。

**炎の状態**

| 異　常 | 正　常 | 異　常 |
|---|---|---|
| × | ○ | × |
| **しんの上げすぎ**（拡炎板から黄火が大きく出る状態） | **正常燃焼** | **しんの下げすぎ**（拡炎板から炎が出ていない状態） |
| すすや一酸化炭素が多く発生する | 拡炎板から炎が0～2cm出る状態 | においや一酸化炭素が多く発生する |

**◉炎の大きさは上図のように、正常燃焼の状態でご使用ください。**

- 点火後、しばらくすると拡炎板から炎が出て、全周ほぼそろいます。
- 部分的に炎の伸びなどがあるときは、燃焼筒つまみを持って左右に軽く2～3回動かしてください。
- 拡炎板から黄炎が大きく出る状態（しんの上げすぎ）のときは、しんを下げて正常燃焼の状態に調節してください。
- 燃焼中は、ときどき炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。しんが上がりすぎていたり、燃焼筒がずれていると、すすが出て、異常燃焼を起こして危険です。

## 調理時の注意

| | | |
|---|---|---|
| ⚠警告 | なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。<br>空だきすると内部に熱がこもって火災の原因になります。 |  禁止 |
| ⚠注意 | ●上面板の外周からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。<br>内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。<br>●不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。<br>転倒するおそれがあります。 |  禁止 |
| | 煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。<br>煮こぼれ汁が、しんや感震部にかかりますと、火が着きにくくなったり、しんが下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。 |  注意 |
| | ●屋外や部屋の出入口など、風のあたる場所では使用しないでください。<br>異常燃焼を起こすおそれがあります。<br>●風があたらないように、つい立てを立てる場合は、内部に熱がこもらないように、つい立てをこんろから約15cm以上離してください。<br> |  禁止 |
| | 上面板の上に、こんろより大きい鍋や鉄板を直接のせて、上面をふさぐような使いかたをしないでください。<br>内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。<br> |  禁止 |

●**なべや、やかんをのせたときには、必ず火力の調節をしてください。**
なべ等をかけて数分たったら、黄火が出ないようにしん調節つまみを**「消火」**の方向（ ）に回して、しんを下げて調節してください。
最大火力のままで、なべや、やかんをのせますと、炎の出る所がなべ等の底で制限され、火力が余って黄火やすすの出ることがあります。はみだした炎により、なべなどの取っ手が過熱され、やけどや取っ手の焼損の原因になります。
●**燃焼中は、ときどき炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。**
●**煮こぼれをしないように注意してください。**
●なべの種類によっては、傾いたり、すべりやすいものがあります。不安定な状態では使用しないでください。中華なべなどの底の丸いなべは、必ずなべの取っ手を持ちながら使用してください。
●しんを上げて火力を強くする場合には、炎が一時的にのびて、なべややかんの底にすすがつくことがありますので、ゆっくりとしんを上げて調節してください。

## 火力を弱くする場合の注意

**火力をあまり弱くして、拡炎板から炎の先端が出ていない状態のとろ火で燃焼しますと、こんろ内に熱がこもり、においがしたり、こんろのいたみを早めたりします。またしんにタールが付着し消火時間が長くなります。**

## 消火のしかた

### 通常の消火の場合

**1 しん調節つまみを「消火」の方向へゆっくりと回す。**
しん調節つまみを、**「消火」**の方向（　）にゆっくり止まるまで回してください。
（速く回すとにおいが出やすくなります。）

**2 消火を確認する。**
●においを少なくするため、約1～5分程燃焼（炎が一部残る）して消火します。
●火が消えたことを、必ず確認してください。

### 緊急の消火の場合

**◉対震自動消火装置の振り子を押し倒す。**
対震自動消火装置の振り子（感震部）を、押し倒してください。
しん調節つまみの目印が**「真上」**にあり、火が消えたことを必ず確認してください。

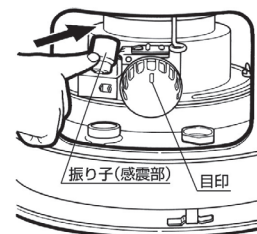
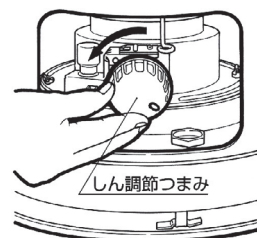
●このとき急速に消火させるため、「ボッ」と言う消火音と共に炎が伸びたり、すすやにおいが発生することがあります。
●**対震自動消火装置の振り子（感震部）を押し倒しても、しんが下がらず消火できない場合は、しん調節つまみを回して、しんを下げてください。**
**それでもしんが下がらない場合は、火が消えるまで燃やしきってください。**

●時間に余裕がない場合は、燃焼筒の上にコップ一杯（200mℓ程度）の水をかけて消火してください。

水をかけると水蒸気が出たりします。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか、手にタオルを巻くなどしてからおこなってください。また、後で油タンク内の水の入った灯油を抜き、しん交換が必要です。

**しんを下げられない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、11 保管 「4 しんの手入れをする」の項を参照してしんの手入れをおこなうか、新しいしんに交換してください。**

**お願い**

消火後、約5分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気が出たり、点火しないことがあります。

# 6 安全装置

### 対震自動消火装置

●こんろが地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。
●しん調節つまみを「点火」の方向にゆっくりと止まるまで回すと、自動的にセットされます。
●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、灯油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。

**お願い**

燃焼中に、対震自動消火装置が働いた場合は、消火時のにおいが強く発生します。

# 7 点検・手入れ

## 点検・手入れのしかた

### 点検・手入れをおこなうときは

- **こんろを消火し、本体の温度が充分に下がってからおこなってください。**
- **手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。**
- **対震自動消火装置の取りはずし、分解は絶対におこなわないでください。**

### 使うたびに

| 点検箇所 | 点検内容 | 処置方法 |
|---|---|---|
| **こんろの周囲** | ●こんろの周囲に可燃物や障害物がありませんか。<br>[火災の原因になります] | ●常に整理、掃除をし可燃物をこんろの周囲に置かないでください。 |
| **油こぼれ<br>油たまり<br>油にじみ** | ●油タンク、置台の表面に油がこぼれたりたまったり、にじんでいませんか。<br>[火災の原因になります] | ●こぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。 |
| **油漏れ** | ●油漏れはありませんか。<br>[火災の原因になります] | ●油が漏れている場合はすぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理依頼をしてください。 |

### 1箇月に1回以上

| 点検箇所 | 点検内容 | 処置方法 |
|---|---|---|
| **ほこり** | ●置台にほこりがたまっていませんか。<br>●油タンクの下の隙間に紙やビニールなどが入り込んでいませんか。<br>[異常燃焼や火災の原因になります] | ●置台を取りはずし、たまったほこり、ごみなどを掃除機で吸い取ったり、雑巾などでふき取ってください。 |
| **対震自動消火装置** | ●しん調節つまみを回してしんを上げてから、置台をゆすると、対震自動消火装置が作動し、そのときしんが下がり、しん調節つまみの目印が**「真上」**位置に戻りますか。<br>[確実に消火することを確認] | ●しん調節つまみの目印が**「真上」**にない場合は、**しん**の項の点検をしてください。<br>●販売店に修理依頼してください。 |
| **油タンク** | ●油タンクの中に、水やごみがたまっていませんか。<br>[不完全燃焼したり、火が消えてしまいます] | ●給油口ふたをはずして、市販の給油ポンプなどで、油タンクの中の水やごみを吸い出してください。（11 保管 参照） |
| **燃焼筒** | ●燃焼筒の細かい穴に、燃えかすやすすが付着していませんか。<br>[異常燃焼の原因になります] | ●ブラシなどを使って、燃えかすやすすを取り除き、きれいに掃除してください。 |
| **しん** | ●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。<br>●しんに煮こぼれ汁が付着していませんか。<br>**しんにタールが付着していたり、煮こぼれ汁が付着していると、次のような不具合が発生します。**<br>●消火操作をしても、しんが下がらない。<br>●しん上下の操作が重く、スムースにできない。<br>●点火操作をしても点火しない。<br>●炎が大きくならなかったり、燃焼中ににおいがする。 | ●タールが付着している場合は、11 保管 **「4しんの手入れをする」**に従って、しんの手入れをおこなってください。<br>**お願い**<br>●しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。<br>●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をしてください。<br>●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。 |

# 8 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買い求め店、または、修理資格者［（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL.03−3499−2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など］のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

# 9 故障・異常の見分けかたと処置方法—修理を依頼される前に—

| 故障・異常箇所 | 現象／原因 | 点火しない・しにくい | 炎が大きくならない・消えてしまう | 赤火や、すすが出て燃える | 消火しない・しにくい | においがする | 炎がかたよる | しんが下がらない | しん上下の操作が重い | 火の回りが遅い | 処置方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| しん | しんの出過ぎ。 | | | ○ | | ○ | | | | | しんを下げて、炎を調節する。 |
| | しんの出が少ない。 | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | 新しいしんと交換する。 |
| | しんに水を含んでいる。<br>油タンクに水が入っている。 | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | しんの手入れをする。または新しいしんと交換する。<br>油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。 |
| | しんにタールがついている。 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 燃焼筒 | 燃焼筒がしんの上にのっている。 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 点火してから必ず燃焼筒つまみを左右に2～3回動かす。 |
| | 燃焼筒の変形。 | | | ○ | | ○ | ○ | | | | 燃焼筒の下部がうまく揃っているかを確かめる。（揃いが悪い場合は販売店に連絡する。） |
| | しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。 | | | ○ | | ○ | ○ | | | | しん調節器の上面にタールがついていない、または燃焼筒下部に不揃いがないかを調べる。 |
| 燃料 | 灯油が変質している。（汚れた油やポリ容器で1年間持ち越した油など） | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 正常な灯油に交換する。<br>新しいしんと交換する。 |
| | 灯油が水やごみを含んでいる。 | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | 正常な灯油に交換する。<br>新しいしんと交換する。 |
| 置台 | 置台に、ごみ、ほこりがたまっている。 | | | ○ | | | | | | | 置台を掃除する。 |

この表以外の不具合があるときや、処置方法により処置をしても良くならないときは、使用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。

# 10 部品交換のしかた

**●しんなどの交換部品は、必ずトヨトミ純正部品（指定された部品）を使用してください。**
**●替えしん、燃焼筒などの交換部品が必要な場合は、お買い求めの販売店までお問い合わせください。**
●部品が販売店にない場合は、別紙の お客様相談窓口一覧 までお問い合わせください。
**インターネットでの部品購入は、http://toyotomi.shop14.makeshop.jp/をご覧ください。**

## 部品交換のときの注意

**●ご自分で部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけど、けがなどしないよう注意しておこなってください。**
①手をやけどしないように、こんろは消火し、温度が充分に下がるまで待ってください。
②手をけがしないように、手袋をはめてください。
**●不完全な修理は危険です。お買い求めの販売店か、（財）日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）などのいる販売店で修理依頼されることをおすすめします。**

## しんの交換のしかた

トヨトミ純正適合しん

| トヨ耐熱しん第124種（TTS-124） | 商品コード:12012907 |
|---|---|

しんの交換方法・注意内容は、トヨ耐熱しんに添付されている取扱説明書をお読みください。

検査に合格したしんにはこのマークが貼ってあります。マークの色彩は、白地に赤インクで表示されています。

## 燃焼筒の交換のしかた

| 燃焼筒 | 商品コード:11042706 |
|---|---|

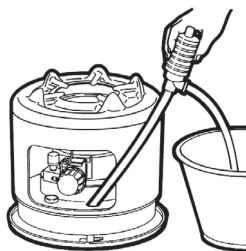
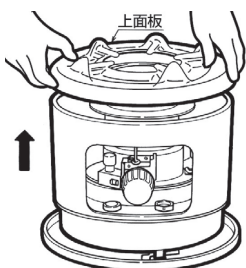
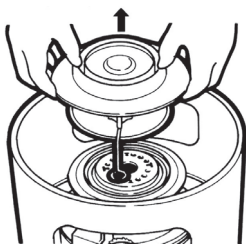
燃焼筒の構成部品が、変形していたり、燃焼筒の下部がうまく揃っていない場合は、お買い求めの販売店、または別紙の お客様相談窓口一覧 までお問い合わせください。

# 11 保管(長期間使用しない場合)

**⚠注意**

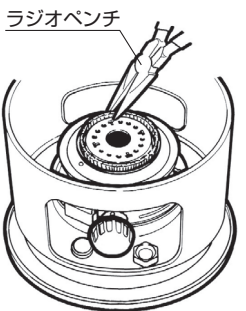
長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず灯油を抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。

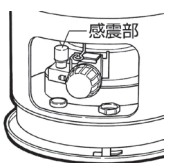
## 1 油タンク内の灯油を抜き取る。

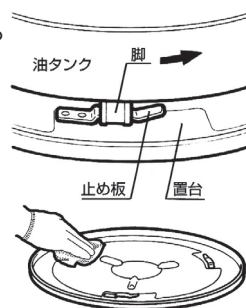
●油タンクの給油口ふたをはずし、市販の給油ポンプの吸込側を油タンクに差し込んで、油タンク内の灯油を抜き取ってください。
●油タンクに水やごみが残ったまま保管すると、錆や油漏れの原因になります。
きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。

## 2 上面板を取りはずす。

## 3 燃焼筒を取り出す。

## 4 しんの手入れをする。(から焼きクリーニング)

**お願い**

●しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。
●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をおこなってください。

しんの先端が固くなっている時は、ラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶしてからおこなってください。
①**1**の手順で油タンクの灯油を抜き取ってください。
②燃焼筒をしん調節器の上に正しくのせ、上面板を元通りに組み付けてください。
③通常の点火操作をして、正しく燃焼させてください。
④火力が小さくなったら、自然に消火するまで燃やしきってください。

**感震部の点検・手入れをおこなう**

●ごみやほこりがついていたら、やわらかい布できれいにふき取ってください。
●錆が多量に発生している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
●こんろ内の汚れは濡れた布でふいて落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。

## 5 置台を取りはずし掃除する。

油タンクを矢印の方向に回して置台を取りはずし、置台の上にたまったほこりや汚れを取り除いてください。

## 6 対震自動消火装置を作動させる。

対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。

## 7 収納する。

包装箱に入れ、湿気の少ない場所に保管してください。
**「取扱説明書」**も忘れずに大切に保管してください。

**お願い**

●高温多湿、直射日光の当たる場所には、保管しないでください。
錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。
●灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

●灯油は変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない(使いきる)ようにしてください。

# 12 廃棄するとき

11 保管 の1項を参照して、油タンク内の灯油を抜き取ってから、各自治体の指導に従って廃棄してください。

# 13 仕様

| 型式の呼び | | K-3F | 外形寸法(置台を含む) | 高さ | 330mm |
|---|---|---|---|---|---|
| 種類 | | 石油こんろ | | 幅 | 358mm |
| | | しん式・煮炊用・屋内用 | | 奥行 | 358mm |
| 点火方式 | | マッチ点火 | 質量 | | 約6kg |
| 使用燃料 | | 灯油(JIS1号) | しん | 種類 | 普通筒しん |
| 燃料消費量 | | 2.15kW(0.209L/h) | | | トヨ耐熱しん第124種(TTS-124) |
| こんろ効率 | | 54% | | 呼び寸法 内径 | 105mm |
| 出力 | | 2.15kW | | 厚さ | 3.2mm |
| 油タンク容量 | | 3.1L | | 吸上量 | 180% |
| 燃焼継続時間 | | 約15時間 | 安全装置 | | 対震自動消火装置(しん降下式) |

# 14 アフターサービス

## 保証について

**●保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、お受け取りください。記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。**
**●保証期間は、お買い求めの日より1年間です。**

### お願い

次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんのでご注意ください。
(1) 変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
(2) ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかないためにおこった故障や事故。
(3) 純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったための故障。
(4) 消耗品(しん)の故障。
(5) この取扱説明書や、注意書、ラベル類による指示、危険･警告･注意･お願い事項が守られず、誤った使い方をされた場合の故障や事故。
●その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

## 修理を依頼するとき

●9 故障･異常の見分け方と処置方法 に従って、処置をおこなってください。
直らないときは、使用を中止し、必ずお買い求めの販売店に修理を依頼してください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名…石油こんろ
②型式の呼び…K-3F
③お買い求め年月日
④故障の状況(できるだけ具体的に)
⑤おなまえ,おところ,電話番号
●修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●修理料金は、技術料,部品代,出張料などで構成されています。
●修理･引越しなどで、こんろを運搬される場合は、油タンクの灯油を必ず抜いてください。
運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

## 補修用性能部品について

●石油こんろの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後6年です。
●補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

### ◉消耗･劣化する部品

●使用期間により、交換･メンテナンスが必要な部品…しん
●変質灯油、不純灯油などの不良灯油の使用で劣化しやすい部品…しん

## 故障･修理の際の連絡先

**アフターサービスについてわからない場合は、お買い求めの販売店、または、お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までお問い合わせください。**

# トヨトミ石油こんろ 保証書

本保証書は、本書記載内容により無料修理をおこなうことをお約束するものです。
お買い求め日から下記期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

型　式　K-3F　　保証期間　お買い求め日より１年間

※お買い求め日　　年　　月　　日

※お客様　ご芳名　　様

〒□□□-□□□□

ご住所

〔電　話　（　　）　〕

（※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は無効となりますから必ずご確認ください。）

※販売店名・住所・電話番号

株式会社 トヨトミ　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
〒467-0855　☎052-822-1144

## 【 無 料 修 理 規 定 】

1．お買い求め日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容により、お買い求めの販売店または当社が無料修理致します。
2．無料修理をお受けになる場合は、本書あるいは購入日・支払いを証明するものをご提示のうえ、お買い求めの販売店または当社にご依頼ください。
3．ご転居やご贈答品等でお買い求めの販売店に修理を依頼できない場合は、当社までお問い合わせください。
4．保証期間内でも、次の場合は有料になります。

（イ）　取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意書に従わない使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
（ロ）　お買い求め後の器具の転倒、落下、衝撃・輸送等による故障及び損傷。
（ハ）　火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害その他の環境要因による故障及び損傷。
（ニ）　指定以外の燃料、または変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用された場合に生じた故障や損傷。
（ホ）　一般家庭用以外（例えば、温室や業務用の使用、車輌・船舶への搭載など）に使用された場合の故障及び損傷。
（ヘ）　部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
（ト）　本書にお買い求め年月日・お客様名・販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売等で購入され、それを証明する商品の送り状・支払明細書の提示がない場合。ネット販売を利用した個人売買品や譲渡品、中古品（再生品）の修理。
（チ）　修理のご依頼に際して本書のご提示がない場合。

5．本書は日本国内においてのみ有効です。
6．本書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

●この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または、最寄りの当社支店・営業所にお問い合わせください。
●保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書の「アフターサービス」の項をご覧ください。
●お客様の個人情報は、当社規定により、厳格に管理します。保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

修理メモ

株式会社 トヨトミ

ホームページ　http://www.toyotomi.jp

本　　社　〒467-0855
名古屋市瑞穂区桃園町５番17号
フリーコール　0120-104-154
TEL 〈052〉822-1144
FAX 〈052〉822-2742

C-Ⓑ